

## 平成 28 年度なんたん子育てミニフォーラム (京都丹波いじめ・非行防止フォーラム)



平成 28 年 11 月 29 日(火)園部総合庁舎において、開催しました。



南丹管内の幼稚園・保育所から高等学校までの教員、PTAや放課後児童委員会・児童クラブ等の学校関係者、社会教育関係者、民生児童委員協議会の方等、約 160 名の参加がありました。

### 講演 I

#### 「子どもたちを取り巻く社会状況について」

京都府亀岡警察署 生活安全課 課長 辻 隆宏さん



大麻や覚せい剤などの薬物が子どもたちの身近に迫ってきていることについて、薬物やその使用に用いられる器具などの画像を提示しながら具体的にお話いただきました。大麻や覚せい剤に引き込まれる入り口となるのが、タバコの喫煙であることも強調されていました。

・「とりかえしのつく段階ならばとりかえしはつく。」と、発言されたことが最も印象に残りました。とりかえしが見つからない＝やりなおせない。その当事者は生きていながら、その人生の終わりを自ら招いてしまう。生まれたこと。生かされて生きていること。わからないまま成長するのは危ういですね。家庭・地域・学校の教育力がとても重要だと改めて思いました。

・未然防止、早期発見が大切だと改めて思いました。まわりの大人が見ている、気付いてあげることが大切、自分の子どもだけでなく、地域で子どもを見守る目が必要だと思いました。

・京都府でも薬物乱用、大麻問題が深刻化していることについて改めて心に響いた。小さい頃からの教育と地域のつながり、見守りが大切だと痛感した。

参加者の感想より  
抜粋



### 講演 II

#### 「子どもが集まる居場所づくり」～かめまる子ども食堂開設の取組を通して～

かめまる子ども食堂実行委員会 代表 関本 里絵さん

副代表 末吉 理花さん

障がいのある子もない子も、ともに生活する中で育ち合う姿を見て、多様性を認め合う関係の大切さに気づき、子どもも親も集まる居場所を作ろうと立ち上げられた「かめまるこども食堂」の取組をお話いただきました。

・「多様性」や「バリア」という言葉をよく聞くようになりましたが、実際の子どもの変化を具体的にお話いただき、「多様性」とはこういうことを言うのだと気付かされました。「子どもの世代で結果が出れば」「自分たちは種をまく」「大人が仕掛け人に」「子どもの居場所、コミュニティを築かせるため、今の大人たちが絶えず頑張らねばな、と決意を新たにしました。とてもよいお話でした。

・子どもたちの多様性を認めつつ、積極的に経験を積みせようとする中で、周囲の子どもが成長している様子がよくわかりました。貴重な取組を紹介いただき感謝します。前向きに活動される姿を親として見習いたいと思いました。また、他の方にも紹介したいです。

・ハンディを乗り越えて、多様性の中で学ぶこと、育ちあうことができる、子どもたちの力は素晴らしいと思いました。遊びの中で色々な学びがある、笑顔がある、様子がよく感じられました。「頑張りすぎないこと、頼ることも大切」という言葉がすごく心に響きました。

・子どもたちの多様性はもちろん、親の生き方の多様性も知り、認め合い励まし合える世の中でありたい。一人で頑張るのではなく、頼り合うことも大切であるというお話も聞き、人を受け入れ合う人であり、地域でありたいと願わずにはおれないと感じました。

・子育てしながらできることをしたいと思いました。とても励みになりました。

